

-----  
[ 成果情報名 ] 硬質小麦「ミナミノカオリ」の刈取適期

[ 要約 ] 硬質小麦「ミナミノカオリ」において、容積重が重く、生地物性、製パン適性が優れる刈取時期は成熟後3~4日である。

[ キーワード ] 刈取時期、生地物性、製パン適性、ミナミノカオリ、容積重

[ 担当部署 ] 豊前分場 野菜水田作チーム

[ 連絡先 ] 0930-23-0163

[ 対象作物 ] 麦

[ 専門項目 ] 栽培

[ 成果分類 ] 技術改良  
-----

[ 背景・ねらい ]

硬質小麦「ミナミノカオリ」は西南暖地で栽培できるパン用小麦品種として、福岡県で準奨励品種として採用され、普及拡大が期待されている。しかし、刈取時期と品質や製パン適性の関係は明らかではない。

そこで、「ミナミノカオリ」の刈取時期と品質、生地物性および製パン適性との関係を検討し、品質や製パン適性が優れる刈取適期を明らかにする。

[ 成果の内容・特徴 ]

1．容積重は早刈(成熟期前2日)や遅刈(成熟期後8~10日)で小さく、標準刈(成熟期後3~4日)で優れる。フォーリングナンバー値は早刈で小さく劣る(表1)。

2．早刈ではグルテンインデックス、バロリメーターバリューが小さく、グルテンの質や生地物性が劣り、パン総点が小さくなる傾向がみられる(表2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1．実肥を施用した場合、茎葉の黄化が遅れる傾向がみられるので、遅刈とならないように、成熟期後日数(成熟期は“ろう”くらいの固さに達した穂が全体の80%を占め、水分含有率が30~35%の時点)から判断して、刈取りを行う。

[ 具体的データ ]

表1 ミナミノカオリの刈取時期と品質(平成16~17年)

刈取 時期	成熟 期後 日数 日	粒 水分 %	容積重 g	検査 等級	セイメイ ション 値 ml	フォーリング ナンバー 値 秒
早	-2	32~37	812	2.3	8.4	333
標準	+3~+4	17~20	827	2.3	8.4	374
遅	+8~+10	18~19	813	3.0	8.3	368
刈取時期			**	ns	ns	*
年次			**	**	**	**
交互作用			**	ns	ns	ns

注1)試験期間中の総降水量は平成16年は7mmと少なく、平成17年は59mmとやや少なかった。

注2)施肥法(Nkg/10a)は基肥(5kg)+1追(4kg)+2追(2kg)+実肥(4kg)とした(実肥は出穂後約10日に4kg/10a施用)。

注3)検査等級は1(1等ノ上)~7(等外)の7段階で表示した。

注4)容積重は平成16年は早刈、平成17年は遅刈で有意に軽かった。

注5)\*\*、\*はそれぞれ、5%水準で有意であり、nsは有意でないことを示す。

表2 ミナミノカオリの刈取時期とグルテンの質量、  
生地物性、製パン適性(平成16年)

刈取 時期	グルテン インデックス %	湿グルテン %	バロリメ- ターバリュー	パン 比容積 cm <sup>3</sup> /g	パン 総点
早	81.7	31.5	64.5	4.1	81.2
標準	87.8	32.8	67.5	4.2	82.5
遅	90.7	30.5	68.5	4.3	83.5
刈取時期	ns	ns	ns	ns	-

注1)パン総点は体積、すだち、味などパン官能評価総合値。

注2)グルテンインデックスは値が高いほどグルテンの質が良好である。

注3)湿グルテンは値が高いほどグルテンの量が多い。

注4)バロリメーターバリューは生地形成状態の総合評価値で一般的に値が高いほどパン適性が高い。

[ その他 ]

研究課題名：九州における早播適応性小麦の早熟化栽培技術等の確立

予算区分：国庫受託(プラニチ1系)

研究期間：平成17年度(平成13~17年)

研究担当者：岩淵哲也、田中浩平、渡辺敏朗

